

二 史跡安宅氏城館跡の遺物組成

佐藤純一 SATO Junichi

はじめに

史跡安宅氏城館跡に属する五箇所の城館跡のうち、土井城跡を除いた四箇所の城館跡については、発掘調査が実施されている（白浜町教育委員会・安宅荘中世城郭発掘調査委員会二〇一四、白浜町教育委員会二〇一九）。このうち安宅氏居館跡については、周知の埋蔵文化財包蔵地「安宅本城跡」の一部分のみが指定されている。今回取り上げる発掘調査による出土遺物の組成については、いわゆる史跡安宅氏城館跡として現在指定されている「安宅氏居館跡」の範囲内から出土した遺物のみならず、指定を念頭においた包蔵地内の調査における出土遺物も含んだ数値となっている点にご注意願いたい。

なお、本組成表は、『安宅荘中世城郭群総合調査報告書』及び『同補遺編』掲載分を再掲するものである。再掲にあたっては、同一遺跡のものについては統合している（表1）。また、史跡安宅氏居館跡の内部を調査した第4次・第5次調査出土の遺物組成については、表2で提示している。

史跡安宅氏城館跡の詳細については、本書所収「熊野水軍が築いた城館―史跡安宅氏城館跡を中心に―」論考を参照されたい。

一 遺物組成の概要

史跡安宅氏城館跡の出土遺物組成の特徴については、前掲報告書の他、北野隆亮氏により検討されている「北野二〇〇五・二〇一七」。

安宅本城跡（安宅氏居館跡）では、様相が不明な時期もあるが、中世をとおして遺物が出土する。八割近くを土師器が占め、国産陶器、輸入陶磁器、瓦器と続く。一方、八幡山城跡や要害山城跡では、一五世紀後半から一六世紀初頭代の限定的な時期が想定されているが、備前焼の比率がきわめて高い。八幡山城跡では八割を超える量の備前焼が出土している。山城では貯蔵具に適した備前焼甕の出土が増加すること起因するとみられる。中山城跡は、出土量が僅少なため特徴が捉えにくい。平地の居館と山城との折衷的な性格を現しているのかもしれない（佐藤二〇二〇）。

今後、他の城館跡の遺物組成等を含めて、さらなる比較検討を進めたい。

引用参考文献

- 北野隆亮 二〇〇五「補論二 遺物組成からみた安宅本城跡」『日置川町史中世編』日置川町史編さん委員会
- 北野隆亮 二〇一七「備前焼からみた安宅荘中世城郭群―要害山城跡出土資料を中心に―」『熊野水軍のさとシンポジウム列島の中の熊野水軍』資料集
- 佐藤純一 二〇二〇「日置川流域と安宅氏城館跡」『軍記と語り物』第五六号 軍記・語り物研究会 三〇〜四一頁
- 白浜町教育委員会・安宅荘中世城郭発掘調査委員会二〇一四『安宅荘中世城郭群総合調査報告書』
- 白浜町教育委員会 二〇一九『安宅荘中世城郭群総合調査報告書 補遺編』

1. 安宅本城跡（安宅氏居館跡）

種類		破片数	占有率%
土器	土師器	2,299	75.3
	瓦器	104	3.4
国産陶器	土師質・瓦質土器	23	0.7
	東播系須恵器	6	0.2
	常滑	74	2.4
	山茶碗	85	2.7
	備前	222	7.3
	瀬戸美濃	75	2.5
	志野	1	0.1
	不明	2	0.1
	小計	465	15.3
	中国製陶磁器	青磁	58
白磁		50	1.6
染付		47	1.5
褐釉		2	0.1
黒釉		1	0.1
朝鮮製陶磁器	小計	158	5.2
	褐釉	1	0.1
総破片数		3,050	

2. 八幡山城跡

種類		破片数	占有率%
土器	土師器	140	4.3
	瓦器	1	—
国産陶器	常滑	58	1.8
	備前	2,703	83.2
	瀬戸美濃	90	2.8
	小計	2,851	87.8
中国製陶磁器	青磁	180	5.5
	白磁	24	0.7
	染付	17	0.5
	天目	9	0.3
	黒釉	28	0.9
小計	小計	258	7.9
	総破片数	3,250	

表 1 史跡安宅氏城館跡 出土遺物組成表

総破片数組成

種別	破片数	種別	破片数
縄文土器	1	近世瀬戸美濃	9
弥生土器	132	肥前陶磁器	63
土師器	742	その他近世陶器	15
須恵器	47	近・現代焼物	49
灰釉陶器	1	平・丸・棧瓦	38
黒色土器	21	土製品	118
瓦器	83	石器・石製品	36
中世須恵器	72	金属器	271
中世土師器	2,037	木製品	1
土師質・瓦質	23	自然遺物	199
中世陶器	163	その他	12
輸入陶磁器	119	総破片数	4,254
近世土師器	2		

表 2 安宅氏居館跡 第 4 次・第 5 次調査 出土遺物組成表

3. 中山城跡

種類		破片数	占有率%
土器	土師器	23	25.0
	瓦器	0	—
国産陶器	常滑	0	—
	備前	27	29.4
	瀬戸美濃	17	18.5
	小計	44	47.9
中国製陶磁器	青磁	2	2.2
	白磁	12	13.1
	染付	11	12.0
	小計	25	27.2
総破片数		92	

4. 要害山城跡

種類		破片数	占有率%
土器	土師器	108	18.5
	瓦器	0	—
国産陶器	常滑	0	—
	備前	395	67.5
	瀬戸美濃	60	10.3
	小計	455	77.8
中国製陶磁器	青磁	9	1.5
	白磁	12	2.1
	染付	1	0.2
	小計	22	3.8
総破片数		585	

(凡例)

・本表は、「安宅荘中世城郭群総合調査報告書」及び「安宅荘中世城郭群総合調査報告書 補遺編」報告分を再編したものである。

・占有率は、小数点第 2 位まで求め、繰り上げた。

中世（12～16 世紀）土器の総破片数

産地	種類	破片数
紀伊北中部	瓦器	83
	瓦質土器	18
近畿地方	京都系土師皿	3
	瀬戸内地方	播磨型土鍋
東海地方	東播系須恵器	6
	備前焼	98
	山茶碗	66
	瀬戸美濃系陶器	52
	志野焼	1
中国（輸入陶磁器）	常滑焼	10
	南伊勢系土鍋	2
	白磁	41
	青磁	43
	染付	31
	褐釉	2
	黒釉	1
朝鮮（輸入陶磁器）	褐釉	1
産地不明 （搬入品・地元産含む）	土師器	1,917
	土師質土器	5
	陶磁器	2
総破片数		2,496